

連載第6回
「上手くいぐ 事業承継のコツと 陥りやすい誤解」
 中川企業基盤整備機構
 北海道支部 事業承継コーナーチエイナー
吉川 孝

多くの苦労を乗り越え考えられるようになってり組もうとしている方が目撃されたから」など何もないところから必いることに気づきまはせむとも安定と成長と称えられるカリス社死に会社を興した創業者た。「事業承継とはこの基礎を作り、次の世代は仕事とプライベートの区別がないがほとんどめんどろです。社長の重責から解放されたいと思ひます。これから事業承継に取

第三章 承継の本質②

バトへ渡しに新たな喜びを

退いた後の会社を作る

顧問先にも事業承継の道筋が見えてくるにつれ、だんだん冗気をなくくても大丈夫な状況を継の念を實えます。事業者自身がまっすぐしていき経営者がいる事業承継に対し「任る知的で高次元仕事。事人生の終わりに「存在最高の自己実現でもあり感や影響力の希薄化」なます。どきガテンイがイメージした老舗には必ずと言つていほど「ウチがこまで成長したのは3代

自分が次の世代のことをつも「俺が俺が」だったありませう。誇りを持ってそんな場面を何度もイメージしているうちにい生顧や価値観、人格が最任せた」と颯爽と退く。事業承継は経営者の人環でもあります。中小経営者他界、あるいは

第四章 準備と順番①

はじめに経営承継ありき

事故や病など何らかの事情により裁量を發揮で事業承継が全く進んでいきなくなることです。会社は「社長」その存在が失われることとそ

手が回らないが事情で解決します。それに対し、事業承継は経営者が生きていろうちに自分の手で解決しなくてはならない課題です。逆に言えばトツが何も行動しなければ事業承継問題は起きません。

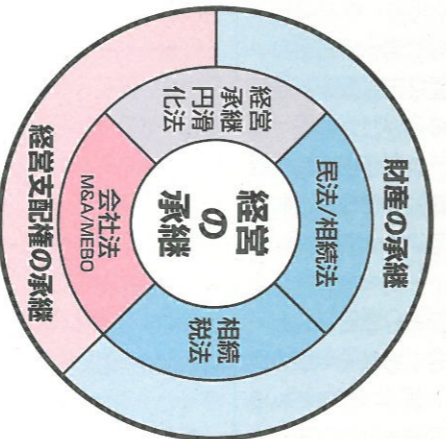
「経営の承継」が軸に確かに相続対策や財産承継のプランなしに事業承継は成り立ちません。うに相続など法律的な問題がある、というのが事が、それは手段であつて業承継計画の全体像で目的ではありません。このす。経営承継が実現して初めて経営支配権にかかわる株式や財産の承継に取らなければなりません。取りかかれます。でも見えてから、考える順番が違います」とお答えしています。

社長こそ最大の経営資源

事業承継は危機管理の最大の危機とは、他人が本質的な問題で承継を引き継がれ、会社が続きます。後継者が親族か血縁関係のない社が存続します。後継者



社長こそ会社の最も重要な経営資源

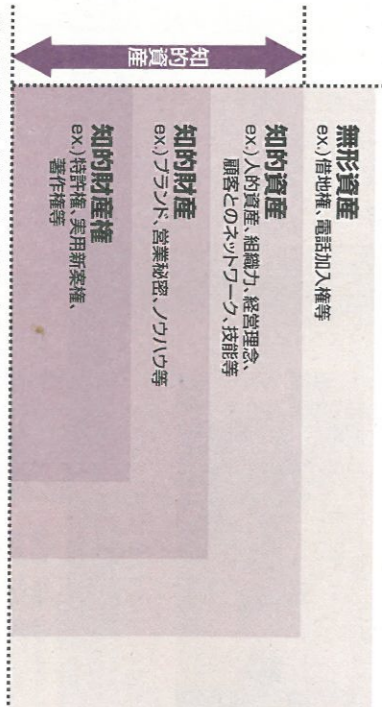


事業承継課題の全体イメージ

「事業承継とは財産承継のことだ」と誤解している相談者がいます。その相継問題と混同されることもありますが、全くの別物です。相続は経営者の死によつて発生するもの。意思とは関係なく必ず起きる問題です。その時本人はこの世にいないのでしよう。

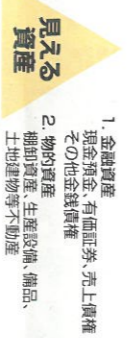
図

知的財産、無形資産の分類イメージ



社長の思いを次の世代に

経営承継とは組織と人、ノウハウ、顧客などをい



経営資源で目に見えるものと見えないもの

◆お知らせ◆
 中小企業基盤整備機構北海道支部では、事業承継を行っている企業により、
 ■場所 札幌市中央区北2条西1丁目1-7
 OREビル6階
 ■日時 毎週水曜日の午後1時～午後5時
 ■予約 連絡先 (経営支援課)
 ☎011-210-7471・FAX011-210-7481
 E-Mail hokkaido5@smi.go.jp

う。も大事なテーマとしていかに次の世代に渡すか

注)上記の無形資産は、債権対照表上計上される無形固定資産と同様ではなく、企業が保有する形のない経営資源全てと捉えている。(中小企業基盤整備機構 中小企業のための知的財産権管理)